

H 自然科学実践研究

夜空の明るさに関する課題研究

(1) 研究開発の課題（研究概要）

全国の連携校（高校・高専）25校の生徒及び観測に参加した小中学生が、自らの観測から得られたデータを生徒・児童自身が考察し、得られた結果を研究発表会で発表した。

(2) 研究開発の経緯

コアSSHとして実施してきた活動が浸透し、データ収集を重ねてきた各連携校や小中学生が、それぞれの研究の成果を発表した。連絡にはMLを活用した。

(3) 研究開発の内容

ア 研究の内容・方法

発表会の準備から当日の進行までを生徒が運営することにより、生徒の総合的な力を伸ばし、研究を深め他校の生徒と交流することにより、生徒の「科学リテラシー」を高めることが期待できる。

イ 参加者 生徒30名、教員・一般9名

岐阜県立岐山高等学校、遺愛女子中学高等学校、土佐塾高等学校、一宮市立南部中学校、一宮市立向山小学校、本校

ウ 日時場所

12月9日（土）13:15～16:20 一宮駅ビル2F大会議室



生徒の発表



小学生の発表

エ 実施内容

小学生から高校生までが口頭・ポスター発表し、1件ずつ議論・検討を重ねた。また、ポスターの前では、議論を通して参加者相互の交流を深めた。最後に本校職員が日本天文学会ジュニアセッションでも1つのセッションとなった「夜空の明るさ」研究について、これまでのまとめを実施した。なお、オプションイベントの駅前観望会は曇天のため中止となった。

オ 検証（成果と反省）

発表件数がやや少なくはあるが、アンケートから児童・生徒の光害への興味関心と観測・研究への意欲が高まり、挑戦心・協調性の向上に役立つことが分かる。小中学生の発表は、高校生との双方に良い刺激となるので、今後とも継続していきたい。一般の方の参加もあり、関心を持っていただけていると感じている。

